



JTB社長
高橋広行氏

受賞地域をバックアップ

まずは、受賞された皆さまにお祝い申し上げます。

JTBグループは旅行業を通じて培ってきた「人と人をつなげる力」を活用して、あらゆる場所での交流を生み出し、地域や社会課題の解決にまっすぐ取り組む交流文化事業を推進しています。05年にこの理念のもとにJTB交流文化賞を創設し、今回11回目を迎えることができました。交流文化賞の大きな特徴は、地域の個性が生かされ今後の発展が期待できる「持続可能な観光」を応援する賞ということです。

今後も受賞した地域の取り組みに対しては、表彰だけでなく、具体的な支援や商品化やプロモーションなどをJTBグループが全力でバックアップしてまいります。受賞地域の「これからは」を期待いたします。

英田上山棚田団の参加者



授賞式の様子



地域に根ざした持続的な交流の創造と、各地域の魅力の創出、地域の活性化に寄与することを目的とする「JTB交流文化賞」。第11回受賞作品が1月21日、主催のJTBから発表された一関連記事3面。組織・団体部門では、最優秀賞に英田上山棚田団「元快集楽 歓交立克」世界棚田連邦をめぐして、優秀賞に、おもてなしスノーレンジャー「留学生スキーインストラクター『おもてなしスノーレンジャー』育成プロジェクト～北海道のスキー文化の発展とローカススキー場の存続と活性化のために～」と、気仙沼つばき会「漁師が帰りたいくなる港へ～気仙沼つばき会による女性目線の観光・まちづくり」が決まった。

交流による地域活性の優れた取り組みを表彰

棚田再生からさらに進化

岡山県東部、美作市(旧英田郡)上山には、奈良時代から築かれたという棚田があったが、昭和30年代の高度成長期を境に人口が流出し、耕作放棄地を増えるを得ない状況に。田舎を前に村総出でやってきた水路掃除も年々、参加者が減っていった。

定年後、大阪から元商社マンがこの地に移住した。その息子らと一緒にかつての棚田を手作りで再生しようと、プロジェクト集団「英田上山棚田団」を2007年9月に発足させた。

棚田団は、まず農作業シブアを募集し、さらに、3枚の休耕地で稲作も開始した。活動の拠点として空き家となっていた古民家も使えるようになった。

村人の協力の輪も広がり、ブランド米販売や活動記録出版、祭りの復活、台湾の棚田との提携など進化を続ける交流、定住人口の増加や、景観の再生や文化の継承にもつながっている。

「元快集楽 歓交立克」。肅々と棚田の保全作業や稲作を行いつつも「元」気で「快」活な「集楽」をつくり、「歓」びを「交」流させるために自分の足で「立」ち上がり、課題を「立」現する活動を提案、実施していく。その提案に呼応する、全世界中の強者たちの出会いを楽しみに「世界棚田連邦」を目指す。

【講評】
棚田の復興だけでなく、ブランド米や酒などの商品づくり、環境に配慮した二次交通や宿の整備など、ダイナミックで質の高い取り組みで、感動した。移住した人が子供を産むなど「田舎」の復活につながっており、移住促進の成功事例として、評価できる。

げん かい しゅう らく かん こう りっ こく
元快集楽 歓交立克
—世界棚田連邦をめぐして—
あい だ うえやまたな だ だん
NPO法人 英田上山棚田団
(岡山県美作市)

最優秀賞

受賞の喜び



協創LLP
原田明代表

2度目の挑戦
手応えあり



英田上山棚田

留学生にスキー教える

外国人スキー客の受け入れ態勢充実、海外からのスキー需要喚起を目的に、北海道スキー連盟やスキー場などの協力を得て留学生をスキーインストラクターとして育成するプロジェクト。留学生によるSNSでの情報発信の効果もあり、アジアの初心者スキーヤーを取り込んでいる。

元気あふれるスノーレンジャー



留学生スキーインストラクター
「おもてなしスノーレンジャー」育成プロジェクト
～北海道のスキー文化の発展と
ローカススキー場の存続と活性化のために～
NPO法人 おもてなしスノーレンジャー
(北海道札幌市)

優秀賞

受賞の喜び



安田稔幸副理事長

スキー修学旅行
もっと呼び込む

中国からスキー修学旅行をたくさん呼んで、北海道のローカススキー場を存続させたい。呼び込むには日本と中国の両方の旅行会社との連携が必要なので、JTB北海道と一緒に取り組んでいる。その子供たちが育っても毎年のように北海道にスキーに来てくれるのが理想だ。

地域活性化だ。

【講評】

語学のできるインストラクターが不足しているから、留学生にスキーを教えるという発想の転換が素晴らしい。きっかけが、大学の先生の「留学生の就職支援のために、語学だけでは、資格も取らせたい」という一言だった。これにも共感できる。中小規模のスキー場を今後救うための素晴らしいアイデアだった。今後は、民間が主体となって取り組みを広げてほしい。

「出船おくり」でにぎわい

かつての気仙沼の港は、航海に出る漁師をその家族が見送る「出船おくり」でにぎわっていた。感動の多い漁歌を流しながら港を出ていく漁船、風に舞う七色のテープ、手を振り見送る人々。そんな風景は、漁業資源保護のための減船などににより、だんだん少なくなっていた。市内の女性有志による「気仙沼つ



出船おくり

漁師が帰りたい港へ
気仙沼つばき会による
女性目線の観光・まちづくり

気仙沼つばき会
(宮城県気仙沼市)

優秀賞

受賞の喜び



高橋和江代表

気仙沼にある
素敵なものの提示

私たちの取り組みは、元々気仙沼にあって、これは素敵なもの私たちが思うものを、人々の目に少し触れられるようにした。今回の受賞には本当にびっくりしている。地域の中に居ては見えないものもある。JTBと協力し、気仙沼の魅力をさらに再発見していきたい。

【講評】
大勢の市民が参加しており、そのことが観光客の参加意欲の喚起につながっている。見送りの風景を想像するだけで、漁師の成り手を見つづけるのが難しい中、市民と観光客の両方を明るく漁業を盛り上げており、漁船の人にも応えて汽笛を鳴らすなど、民間主体の取り組みとして素晴らしい。

JTB交流文化賞

JTBは、地域・文化・人との新しい出会い、「交流文化」を支援・推進します。

JTB交流文化賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設されました。以来、10年以上にわたり、地域・文化そして人との新しい出会いを応援すると共に、受賞地域を様々なかたちでバックアップしています。第11回「交流文化賞」では、多数のご応募をいただき、ありがとうございました。これからも本賞を通じて、様々な交流文化の広がりと地域の発展に寄与してまいります。

第12回「JTB交流文化賞」は、2016年初夏に募集開始予定です。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。



お問い合わせ先

JTB交流文化賞事務局

(株式会社JTB総合研究所内)

tel.03(3525)4559(10:00~17:30 土・日・祝日休み)

fax.03(3525)4565

e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp

JTB交流文化賞

検索